研究雑話(130)

障害児教育・動作学誌上実習(48)

藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(28)

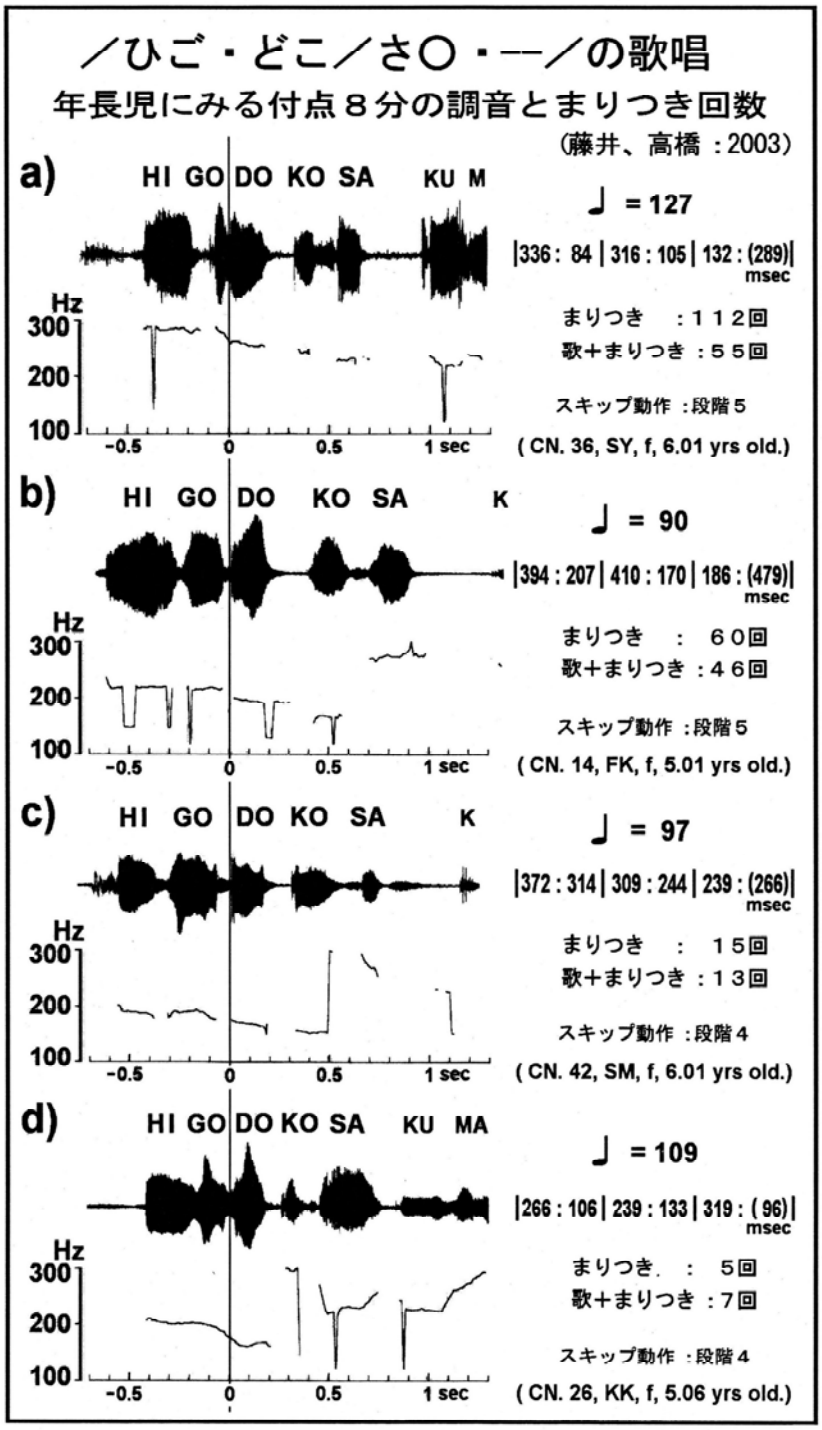
年長児にみる「ひごどこさ」の歌唱とまりつき回数。

前回は、「あんたがたどこさ」を歌いながらまりつきした時の呼吸や発声、手の位相に関するポリグラフ記録から、歌唱による行為調節の効果についてお話しました。歌詞・拍節の「表」と「裏」の関係に、まりつき動作の秘密が隠されていました。①音価では付点8分と16分音符。②音高では「核音」と「中間音」の関係。③2小節・4打拍のまとまり。これらにより戻りを予想したまりつきが可能となるのでした。前号の被験者は中学1年生でした。まりつき遊びの開始期ではどうでしょうか。今回は、保育所年長、年中児におけるその関係に焦点をあてましょう。

保育所年長・年中児にみるまりつき回数：T保育所・**年長児**（5歳6ヶ月～6歳5ヶ月）・23名の平均まりつき回数は、**38回**（男：39、女：37）。**年中児**（4歳6ヶ月～5歳5ヶ月）・23名の平均まりつき回数は、**11回**（男：4、女：14）。

スキップ動作の発達段階（雑話110参照）**とまりつき回数**：段階5（足関節底屈利用、平均6歳0ヶ月）、まりつき45回。段階4（前腕回外持ち上げ、同5歳5ヶ月）、13回。段階3（両肩持ち上げ、同4歳10ヶ月）、3回。

／ひご・どこ／さ○・――／にみる付点8分の調節：課題；「あんたがたどこさ」の歌唱、動作なし。山場の4小節目、／**ひご・どこ**／に焦点をあて音声解析（NTTadv・tec 音声工房Pro）。3小節・後拍／**ひご・さ○**／の後、止まらず、かつ5小節目後拍／**くま**／と連続することが求められる箇所。

同年齢（6歳1ヶ月）だが、まりつき112回（a）と15回（c）にみる付点8分・調音の差：各図、／**どこ**／の前で垂線。／**ひ**／と／**ご**／の表裏関係、及び／**ひご**／と／**どこ**／との前後拍の関係を表出させた。各音価を右記（単位msec）。まりつき112回の子ども（**図a**）は／336：84・316：106／で、表の音価は裏の4ないし3倍。15回の子ども（**図c**）は／372：314・309：244／と1.2倍程度。音高も、前者は、290Hzから230Hzで、ほぼ4度の民謡音階ですが、後者は、190Hzから160Hzのほぼ3度で、かつ拍節の「裏」、／**ご**／や／**こ**／で上がる傾向を読み取れます。

60回（5歳1ヶ月）と5回（5歳6ヶ月）の子どもの比較：**図b**の子どもは年中組ですが、60回もまりつきができます。音価、音高とも1歳上の**図a**の子どもに近いことが了解できます。テンポは毎分90で、ゆっくりですが、しっかり切って歌っています。**図d**の子ども（5歳6ヶ月）のまりつきは、まりの跳ね自体が減衰してしまいます。音価分、しっかり手でつくことが課題ですが、歌唱では、音高波形が連続しており、表裏関係が利用されていない傾向を読み取れます。（北海道教育大学教授）